今帰仁村の人口

昭和54年10月31日現在

男	5,072人(＋3)
女	5,243人(＋7)
計	10,315人(＋10)
世帯数	2,744戸(＋1)

(　)内は前月比

広報 なきじん

第 51 号
編集発行 今帰仁村役場企画室
沖縄県今帰仁村字仲宗根219
TEL 098056－2101
印 刷 沖縄高速印刷㈱
南風原村字兼城577
TEL 0988－89－5513

▶増産が期待される本土出荷西瓜
一月末から四月にかけての本土出荷に向けて西瓜の手入に余念のない豊里友邦・恵子さん夫妻（字渡喜仁一七三）―関連記事二面に―

議長 嘉陽宗哲

昭和55年の年頭にあたり、議会を代表いたしまして謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

村民の皆さん、あけましておめでとうございます。

ここに希望あふれた新春を迎えるにあたり、村民皆さまのご健勝を心からお喜び申し上げます。

わたくしは昨年の9月、図らずも再び議長の要職につき、微力ではありますが円滑な議会運営と村政の伸展を期し、常に厳正中立の立場を堅持し誠心誠意努力を傾注してまいりました。

お蔭をもちましていささかなりとも村民のご期待に添い得たものと自負いたしております。

これもひとえに、村民皆さまのご支援とご協力の賜ものと心から感謝の意を表する次第であります。

顧りみますと、昨年は第2次石油危機の到来によるたび重なる石油の値上げに端を発し、公共料金をはじめ諸生活物資、生産資材等の値上げ誘発し社会経済に大きな打撃を与えたばかりでなく、われわれ家庭経済にも多大な影響を及ぼしきびしい経済の年であったのでありますが、村民皆さまには日頃の勤勉と努力によってよく困難な年を克服しここに希望にみちた輝かしい新春を迎えることができますことを村民とともに喜びに堪えないところであります。

昭和55年はわれわれ議会もさらに研鑽を重ね、村民の福利増進と豊かな村づくりのため鋭意努力していく所存でありますので、村民皆様のより一層のご支援とご協力を切にお願い申し上げるとともに、村民皆さまの躍進と限りないご繁栄を祈念申し上げまして、わたくしの年頭のごあいさつといたします。

村長 松田幸福

村民の皆様に、謹しんで新春のお慶びを申し上げます。

輝しい昭和55年の新春を迎えるにあたり、皆様のご繁栄を心から祈念いたします。また、平素から村政に対しましては深いご理解と暖かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

1970年代は、祖国復帰の実現に伴い通貨切換え、交通変更など、政治経済の両面で激動の時代であり、沖縄歴史未代に残る世がわりの時代であったと思います。

このような厳しい社会情勢下で、本村では常に平和と豊かな近代的村づくりに取り組み、総合開発計画基本構想の策定、それに基づく土地利用計画、第一次産業基本計画、くらしの計画等を策定。その中で農村総合整備計画を進め、54年度は第二次として農村総合整備モデル事業を着工することができました。さらに生産基盤事業として土地改良事業、農業構造改善事業、肉用牛集約生産基地育成事業の導入、玉城林道新設事業、港湾・漁港の整備、その他文教施設、仲宗根保育所の建設等、幾多の計画事業を遂行し、かなりの成果を上げることができたと思います。

80年代の初年度にあたる55年度は、これまでの実績と経過をふまえ、基本構想、農村総合整備計画等の基本計画にそって、生産基盤・生活環境の整備、観光の基盤整備等をはじめ、教育文化施設、村民福祉の充実、今帰仁城跡の整備事業の推進、乙羽山生活環境保全林事業の推進、林業構造改善事業の促進、港湾並びに漁港の整備等を推進し、村発展のために全村民とともに将来の目標実現に向かって村政を力強く展開していく所存であります。

今後とも、村民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げるとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ新年のごあいさつといたします。

目標達成に意欲

県煙草耕作組合今帰仁支部が総会

沖縄県煙草耕作組合今帰仁支部（宮里政富支部長）の昭和五十四年度総会が、十二月二十一日、村役場ホールで開催されました。

今年度の本村における葉煙草栽培実績は、耕作人員五八人、耕作面積五、五〇六・五アール、重量九一、三九六キロ、生産額（億三、〇五四万四、〇一五円（一キロ当一、四二八円）でしかし、十アール当り重量一六六キロ（目標一八〇キロ）生産額一三万七、〇七三円（目標三十万円）と目標を達成することができませんでした。そのため、「煙草づくりは土づくりから」「反収三十万円以上を達成しよう」を目標に、次年度にかける組合員の意気ごみは並々ならぬものがあります。

総会では、五十四年度決算、事業報告の承認、五十五年度予算、事業計画の承認のあと役員改選が行なわれ、会長に宮里政富氏、副会長に座間味秀仁氏が再選されました。次いで表彰状の授与があり、品評会で入賞した次の方々が表彰されました。

※品評会入賞者（沖縄県煙草耕作組合より）
○国吉宗定（謝）○湧川喜正（謝）○比嘉林昌（謝）○上間初男（越）松田学（古）○諸喜田平徳（謝）

※品評会入賞者（今帰仁支部より）
○我那覇隆吉（謝）○玉城助一（謝）○上里朝喜（玉）○上里朝栄（玉）○座間味秀仁（運）○宮里辰夫（運）○喜納智（古）○琉名城政賢（天）○喜納勇吉（内花）○与那嶺富夫（謝）

※品質賞（今帰仁支部より）
○上原森儀（玉）○謝花喜吉（渡）○嘉数平一（渡）○国吉宗定（謝）○与那嶺富夫（謝）◉（）内は総代区。

また、総会で来賓のあいさつをした松田村長は「葉タバコは村の主要作物であり、反収引上げや品質の向上に努力され、もっとすばらしい成績をあげるよう期待します」と組合員を激励しました。

なお、県内の今年の煙草耕作人員は八三四人。耕作面積、一、一二九ヘクタール収納量二、二四三トン、生産額三十億九、八〇〇万円（前年に比べ三二、七％の増）となっています。

▶出荷に向けて菊の手入れをする呉我山の伊良波さん親子

◀表彰状の授与も行なわれた総会

太陽エネルギーをうけてスクスクと ★★ブームを呼ぶ花キ栽培★★

村内の県花キ園芸組合員は現在のところ十九人。ほとんどが二十代の若者ですが、リーダーの真栄田修さん（字天底五一）を中心に毎月土づくりや植付、管理など省エネ時代を迎えた昨今の勉強会を持ちながら品質向上に努めています。

沖縄の太陽エネルギーが注目され県内で花キ園芸が盛んになっていますが、本村においても二十代の若者を中心にこのところ急激に栽培面積がふえており、青々とむれをなした菊やグラジオラスが村内各地でみうけられるようになりました。

組合を通じ、ほとんどが関東および関西の市場へ出荷されますが、さわやかな香りと美しいこれらの花々の咲きほこる風景がもうすぐ村内でもみられることでしょう。

その成果が実り、村内で栽培される花キは「県内では最も優秀」との折り紙つき。なお、今年の村内の栽培面積は、菊の電照栽培一一、六七〇坪、露地栽培三、六三〇坪、グラジオラス二、三八〇坪、スターチス二、二五〇坪、カスミ草一、一八〇坪、リアトリス五〇〇坪、合計二二、六一〇坪と昨年に比べ約二十倍もの増加をみせており、村の新しい産業として台頭しつつあります。

これらの花は県花キ園芸組合を通じ、ほとんどが関東および関西の市場へ出荷されますが、さわやかな香りと美しいこれらの花々の咲きほこる風景がもうすぐ村内でもみられることでしょう。

くらしを考える

山門健一

十二月七日中央公民館で、青年教室・婦人学級、高齢者教室共催の講演会で、山門健一・沖縄大学助教授が「くらしを考える」と題して講演を行ったが、合成洗剤の害と恐ろしさについて多くの示唆を与えた。以下講演要旨。

生活の中で毎日使っている洗剤の話しをしながら、もう一度くらしを考えてみることにしたい。一九六〇年頃は石油が大変安く、自動車などの「石油製品」がどんどん生産された。しかし、80年代は石油不安になりエネルギー対策が急がれている現状である。

合成洗剤は石油から造られるが、石けんは牛や豚の動物油、植物油から造られる。合成洗剤は米国で製造され、敗戦後兵隊と一緒に日本へ上陸した。沖縄は使用が最も早かったと思われる。

合成洗剤の害は本土各地であらわれているが、滋賀県ではいち早く追放条例が制定され全国でも注目をあびている。読谷村では赤ちゃんの髪の毛が抜け、病院でみてもらったら原因は洗剤であったという。また、赤ちゃんのおむつかぶれが、石けんで洗った衣類を着せたら一ヵ月ですっかり治った例もある。東京では、胃の調子の悪い婦人が医師にみせたら、野菜のしぼり汁を毎日飲むように言われ、キャベツを一晩中洗剤に浸してからしぼり、飲み続けているうちに、たちまちシミや疲れが目立った、などの報告例がある。調査の結果、原因は化学物質であることが指摘された。

洗済は自然界の生態系にも変動をきたしている。北部のある先生の話しでは、アタイグワーでアフリカマイマイが出たらその都度洗剤をまき散らしていた。すると、いつしか野菜が枯死、雑草までも生えなくなった、という。これなどはイネの実験例（石けん水を流したイネは標準以上の収穫があり、洗剤使用の水を流したら貧弱なものになった）から明らかである。

座間味村では台所の排水溝にたまるドロをすくい畑に入れているうちにいつしか野菜畑がダメになった例や、また、排水溝周辺のウンチェーがすっかり消えていたなど上げればきりがないほどである。これなどは家庭の洗剤排水が原因である。そこで、昔の生活を思いだしながらも一度、くらしを考えてみる必要がある。

本土では漁業養殖にも大きな害が出て、地域ぐるみで合成洗剤を石けんに切り替えたほどである。

石けんは動物油、植物油で製造されるものである。沖縄は全国でも油をよく消費する県である。そこで、家庭で使用する天ぷら油の廃油や蓄産工場の動物油を回収することで石けん工場も可能である。合成洗剤の使用を止め、石けんに切り替えることで沖縄にも工場がいくつかできる。石けんに替えることで公害がなくなり生活環境や自然体系が回復する。更には石けん工場ができることにより、労働の場が得られることで地域経済の発展にもつながり大変な意義がある。のべてきたように合成洗剤は大変恐しいものである。

今年は二百トンを計画

本土出荷西瓜

一昨年来から出荷量をのばし、本土市場で「糖度、形、選果とも申し分なし」と太鼓判をおされた村内の施設栽培による本土出荷西瓜は、一月末からの出荷にむけて今ハウスの中で実をつけ始めている。

村農協では今年から共同育苗を始めるとともに、生産農家のために勉強会を催し熟度や選果の撤収をはかるとともに、従来の呼びつぎさしつぎ法から断根さしつぎ法に切り替えるなど、品質の向上に情熱をそそいでいる。この断根さしつぎ法を実施すると、そろった根毛が発生するため成長が早い、定植してもつぎ口が折れる心配がないなど、農家の労力も大幅に省かれるという。

村の本土出荷西瓜は、一昨年一二六トン、五千二百万円、昨年一六〇トン、八千五百万円と着実に増加の傾向にあり、村農協では今年二〇〇トンの出荷を計画している。今年のハウス西瓜栽培農家は三五戸だが、天候に恵まれたこともあり「計画どおり順調に出荷できそう」と農家では大きな期待をかけている。

これらの西瓜は、一月末から四月にかけ村の出荷場で選果、箱づめされた後、県経済連を通じ、東京、大阪の市場に出荷されることになる。

品質向上のために行なわれた西瓜のさし木（昨年10月村野菜選果場）

肥満防止や体質改善に効果

体力づくり推進校の今小

中間発表会で成果を披露

▲葉間体育で成果をあげている今小の中間発表

子どもたちが伸び伸びと運動できる条件を整え、体力を養うことによって他教科の学習にも意欲をもたそうという今帰仁小学校（志良堂清次郎校長、児童三九四人）の「体力づくり推進校中間発表会」が、十二月十三日、午後一時から同校で行なわれました。

体力づくり推進校は県教育委員会指定によるもので各地域の体力づくり運動の輪を広げるために実施されています。これまで県内の九校の小学校、六校の中学校が指定をうけており、事業の期間は三ヵ年。今帰仁小では昭和五十三年四月に指定をうけ、これまでの間「葉間体育を通してどのように体力づくりを進めたらよいか」をテーマに研究を進めてきました。内容としては、月～金曜日までの二校時から三校時の授業の間に葉間学習の時間（約二十五分間）を設け、さらに水曜日には全校体操をするなど、児童職員一体となった体力づくりが主。また、今年度から毎日、始業前マラソン、冷水まさつ、乾布まさつも実施しています。

発表会は父兄、各学校教師などが参加して行なわれ、全児童、職員による運動場での葉間体育、バスケットボールの公開授業の後、会場を体育館に移し、研究発表、質疑応答、指導助言がなされました。

これらの葉間体育、始業前マラソンの実施の結果、これまで活気にかけ、遊びも知らなかった児童が、今では上級生下級生の区別なく遊具を使い戸外でのびのび遊べるようになり、さらに、ひん血傾向や肥満状態にあった児童の体調もかなりの好変をみせているといわれます。同校の体力づくり研究は五十五学年度（昭和五十六年三月）まで継続されますが、残された課題にむけてなお一層の成果が期待されるところです。

機械文明の発達した今日、労力の低下に伴い私たちも運動不足になりがちですが小学校の児童にみならって健康増進のために自分なりの運動をこころみたいものですね。

接戦の末 湧川が二連勝を飾る

第十三回村青年駅伝大会

第十三回村青年会駅伝大会（比嘉正成大会長）が十二月二日に行なわれ、湧川チームが昨年に続き優勝を飾りました。大会は各字対抗の九チーム（オブザーバーのOBチームを含む）が参加し、役場前～湧川折り返し～仲宗根～運天折り返し～仲宗根～具志堅折り返し～役場前までの八区間三十一、九キロメートルのコースで競われました。

午後一時三十分、松田村長のピストルの合図で各選手一せいにスタート。一区ではOBチームの嶺井政義選手が健闘してトップ、以下天底、湧川の順位。しかし二区で一気にトップにおどり出た湧川チームは終盤まで終始リードを保ち試合を優位に進めました。ところが最終区では天底チームが激しく追いあげ、ゴールまでせりあう場面もあり、沿道の観衆をわかせました。結果は僅少差で湧川チームが先にゴールインし、天底の追いあげはなりませんでした。なお、大会の順位と区間賞は次のとおりです。

優勝—湧川（二時間五分五五秒）**二位**—天底（二時間六分〇秒）**三位**—謝越（二時間十六分二八秒）**四位**—仲宗根（二時間十七分五七秒）**五位**—今泊（二時間十九分五九秒）**六位**—崎平（二時間二三分四八秒）**七位**—与仲（二時間二九分三六秒）**八位**—両運（二時間三四分二七秒）オブザーバーOBチーム（二時間十五分十九秒）

区間賞
一区—嶺井政隆（天底）
二区—新城博道（仲宗根）
三区—嘉陽宗隆（湧川）
四区—新城正男（天底）
五区—湧川健一（謝越）
六区—石嶺光敏（崎平）
七区—嘉陽宗祐（湧川）
八区—謝花喜隆（天底）
特別賞—嶺井政義（OB）

▶兼次スーパー前でアンカーにタッチする湧川チーム

埋蔵文化財

村内文化財めぐり ⑪

私たちの村内には数多くの埋蔵文化財が分布している。ここでいう埋蔵文化財とは貝塚や遺跡のことを示している。村内の海岸線やその近くには必ずといってよいほど貝塚や遺跡が点在しており、現在二〇余の貝塚や遺跡が発見されている。

貝塚や遺跡は、時代的には相当長い期間にわたって人々が生活を営んだ跡の証左であるが、村内の貝塚や遺跡の年代幅にはかなりの相違がみられる。現在までにわかっているものの中で最も古いものに位置づけられるものは、運天貝塚、西長浜原遺跡、兼次古島遺跡等で、これらのものは沖縄の貝塚時代の前期後半（約二千五百年～三千年前）から中期（約二千年～二千五百年前）にまたがるものである。西長浜原遺跡が一九七七年に二次におよぶ発掘調査がなされた結果、大変重要な「住居群」が発見されたことは承知のとおりで、県内では最初のものということで、全国的にも有名になっている。また、食糧を保存する目的で造られたと思われる「貯蔵穴」や、骨製品、石器類、土器類等が多量に出土した。これらの遺物からその時代の人々の生活がどのように営まれていたかがわかり、土器や遺物は年代を知る重要な手がかりになっている。

また、浜原貝塚（中期から後期）からも石皿や石斧、擦石、敲石等の石器類や多量の土器などが出土し、その他に貝類、獣・漁骨類も多くみられた。特記すべきものとして、獣骨で造った「あぐい」が出土したことで、さらに網錘」も出土していることから、当時（後期）においてすでに網による漁法が始まっていたことがうかがえる。他に、本土の弥生系土器が出土したことから、浜原貝塚を形成した人々はすでに沖縄を越えての交流をしていたことが推察される。

貝塚を形成した人々の食糧確保方法は主に自然の産物を採集、補集するといった自然採集経済を主体にしていたものとおもわれる。食糧に供したとみられる遺物は、貝類、魚類、イノシシやクジラ等の獣類、植物性のものではシイの実などである。貝製品としては、ホラ貝で造った「ヤカン」や貝刃、石匙、装飾品等が出土しており、貝の種類は陸産、海産、河川の貝といった類である。

これら発掘された遺物は、文字以前の人間行動や社会行動が解明される唯一の科学的資料であり、このような観点から、貝塚や遺跡は私たちの祖先の生活実態を一つ一つ解明していくための貴重な文化遺産といえよう。

近年、沖縄でも多くの開発事業が盛んになっている。言うまでもなく、経済開発は私たちにとって欠くことはできないが、貝塚や遺跡の破壊、あるいは人間環境を損わない人間優先の開発がされるべきこともまたいえることである。歴史解明の武器である埋蔵遺跡はあらゆる人間の共有物であり、科学的な発掘調査がなされるまでみんなで大切に保存したいものである。（文＝村教育委員会、松田朝雄）

フォートニュース

敬老年金を支給

村では、「お年寄によい正月をおくっていただくとともに、これからも健康で長生きしてほしい」という願いを込めて、村内の満八〇歳以上のお年寄三九七人に敬老年金を支給した。

村敬老年金は毎年支給されているもので、十二月二十四、二十五日の両日、各字公民館において松田村長からお年寄一人一人に手渡された。

フォートニュース

伊佐真昭さんに表彰状

「福祉をたがやす心と技を育てよう」「可能な限り社会的自立に挑戦しよう」をスローガンに、身体障害者福祉法三十周年を記念した第十七回沖縄県身体障害者福祉大会が那覇市の労働福祉会館で行なわれ、席上字湧川一七二八番地の伊佐真昭さん（三九歳）が、自立更生者として大会長から表彰された。

伊佐さんは、幼少からの音声障害にうちかちながら平山組につとめ、大型特殊免許を取得するなど、誠実と勤勉さは職場でも高く評価されている。

特例納付制度を実施 無年金者はご相談を

特例納付制度とは

国民年金の保険料は二年を過ぎると時効により納められなくなりますが、そのままの状態ですと将来老齢年金を受けられない方のために、最後の救済措置として法律が改正され、時効により納めることができなかった保険料を特例により納めることができるようになりました。これが「特例納付」です。

あなたの年金が復活する最後のチャンス

特例納付のできる人は、国民年金の強制加入被保険者、又は強制加入被保険者であった人が、以前に保険料を滞納している人です。

この特例でさかのぼって納める保険料は、過去の未納期間一ヶ月につき四千円で、期間は今年の六月三十日まで。過去の未納期間分全部をまとめて納めることもできますが、六月三十日までの間に分割して納めることもできます。分割納付を希望する方は、住民課国民年金係又は名護社会保険事務所にご相談下さい。

あきらめるのはまだ早い

国民年金は、六〇歳までに二五年間の期間がないと将来年金をもらうことはできませんが、未加入の方で今から加入しても年金をもらうことができないとあきらめている人はいませんか。

まだ国民年金に加入していない人でも、今回の特例納付により加入手続きをしさかのぼって保険料を納めれば年金をもらうことができます。

国民年金に加入できる年齢は満二〇歳から満五九歳までですが、すでに六十歳を過ぎて加入年齢でなくなっている人でも、以前に当然加入しなければならなかった期間があれば、今からでも加入の手続きをしてさかのぼって保険料を納めることができます。

六五歳以上の人は、未納分の保険料を納めて年金をうけられる期間を満たしますと、その翌月分から年金をもらうことができますから、できるだけ早めに納めた方がお得です。

国民年金の知識 ⑧ 準母子年金

国民年金の加入者で、孫子と、あるいは弟妹の世話をしている姉が夫や父とそれぞれ死別して、母子家庭と同じような状態になった場合に支給されます。

〈受けられる条件〉

準母子年金を受けるには、死亡した夫、息子、父が国民年金に加入していなくてもかまいませんが、次のような条件に該当していることが大切です。

①祖母や姉と孫、弟妹との状態が次のどれかにあてはまること

ア　**夫が死亡したとき**　母や姉が十八歳未満（障害児などの場合は二十歳未満。このあとすべて同じ）の孫や弟妹と生活を共にしていること

イ　**息子が死亡したとき**　夫のいない祖母が、十八歳未満の孫と生活を共にしていること

ウ　**父または祖父が死亡したとき**　夫のいない姉が十八歳未満の弟妹と生活を共にしていること

②祖母や姉の保険料納付状況が次のどれかにあてはまっていること

ア、最近の一年間、すべて保険料を納めていること

イ、最近の三年間、保険料をすべて納めたか、または保険料の免除を受けていること

ウ　保険料を十五年以上納めていること

〈受給年額〉

▽孫や弟妹が一人の場合＝四十七万八千円（月額三万九千八百三十三円）

▽孫や弟妹が二人の場合＝五十万二千円（月額四万一千八百三十三円）

▽孫や弟妹が三人以上の場合＝孫や弟妹が二人のときの年金額に、三人目からの孫や弟妹一人につき四千八百円（月額四百円）が加算されます。

①月のカレンダー

1日(火)	元　旦
4日(金)	御用始め
5日(土)	健康相談（8：30～12：00、保健婦室）
6日(日)	沖縄一本土の社会教育研究交流会（15：00、中央公民館）
8日(火)	成人病再検査（役場ホール）
9日(水)	心配ごと相談（13：30、中央公民館）
10日(木)	人権相談（10：00、中央公民館）
11日(金)	乳児健診（13：00、役場ホール）
12日(土)	健康相談（8：30～12：00、保健婦室）
13日(日)	新春成年ゲートボール大会（10：00、村営グラウンド）
15日(火)	成人式（14：00、役場ホール）
16日(水)	心配ごと相談（13：30、中央公民館）　13
18日(金)	風しん予防接種（中学校女子対象、13：00、役場ホール）
19日(土)	健康相談（8：30～12：00、役場ホール）
21日(月)	ツ反検査（1歳～4歳対象、13：00、役場ホール）
23日(水)	ＢＣＧ予防接種（13：00、役場ホール） 心配ごと相談（13：30、中央公民館）
24日(木)	妊婦相談（13：00、役場ホール）
26日(土)	健康相談（8：30～12：00、保健婦室）
27日(日)	学芸会（兼次小、今帰仁小） 学習発表会（湧川小中）
30日(水)	心配ごと相談（13：30、中央公民館） 三歳児健診（13：00、役場ホール） 学習発表会（古宇利小中）

ご寄贈

村の学校歯科である神元繁一さん（字仲宗根 250）より、村内の恵まれない子供たちにと、目ざまし時計15個の贈り物が対教育委員会にありました。

村教育委員会では、いろいろ検討した結果村内の小学校5、6年生に贈りました。神元さんは毎年数多くのご寄贈をなさっており子供たちに喜ばれています。

ご芳志ありがとうございました。

保健室から

今帰仁村では毎年80～90人の人が死亡しています。ここ数年の死因をみてみますと成人病といわれる脳卒中、癌、心臓病で全死亡の60％を占めています。中でも癌による死亡は増加の傾向にあります。

成人病は習慣病の別名があるとおり私達の日常の生活様式に大きく左右されます。

その予防には食生活の改善・日常生活の摂生等と習慣的に改善する努力も大切です。また村では結核住民検診とだきあわせに成人病の検査も実施しています。こういう機会に検査をうけ自分の健康状態を知り、健康について関心をもつことが大切です。

現在、保健婦室において毎週土曜日・健康相談を実施しておりますので、御利用下さい。

成人病による死因状況

おめでとうございます　各表彰の受賞者の横顔

上間徳正さん

◎青少年育成功労賞

字上運天四一八、上間徳正さん（七二歳）

上間さんは、老人クラブ活動のリーダーとして活躍するとともに、青少年の健全育成のために献身的な活動を続けており、多年にわたる功績によって、十一月二十日沖縄県知事より表彰される。

座間味栄穏さん

◎ＰＴＡ活動功労賞

字玉城九二、座間味栄穏さん（五六歳）

座間味さんは、今小ＰＴＡ体育部長五年、副会長四年、会長七年、名護地区ＰＴＡ連合会理事五年、沖縄県ＰＴＡ連合会代議員二年を歴任。常に会員の先頭に立ち、ＰＴＡ組織の改善と活動に尽力している。昭和五十年の沖縄県ＰＴＡ連合会からの表彰に続き、今年の十一月十七日、九州地区ＰＴＡの研究大会において九州地区ＰＴＡ連合会より表彰をうける。

仲本善則さん

◎ＰＴＡ活動功労賞

字呉我山三六〇、仲本善則さん（四六歳）

天小の文化部長二年、会長四年、村ＰＴＡ連絡協議会長二年を勤めてきた仲本さんは、校外生活指導、各部活動を活発に推進してきた。その功績により十二月九日、名護地区ＰＴＡ研究大会において名護地区ＰＴＡ連合会より表彰される。

諸喜田展生さん

◎村役場職員の諸喜田展生さんが、十一月十六日沖縄県統計大会において、沖縄県統計協会より表彰をうけた。

諸喜田さんの受賞は県統計協会発足当初より協会事業の重要性を認識し協会の発展に尽力した功績が認められたもの。

◎本村の昭和五十三年の事業所統計調査の実施が特に優秀であるとして、十月十八日内閣総理大臣より表彰がありました。